



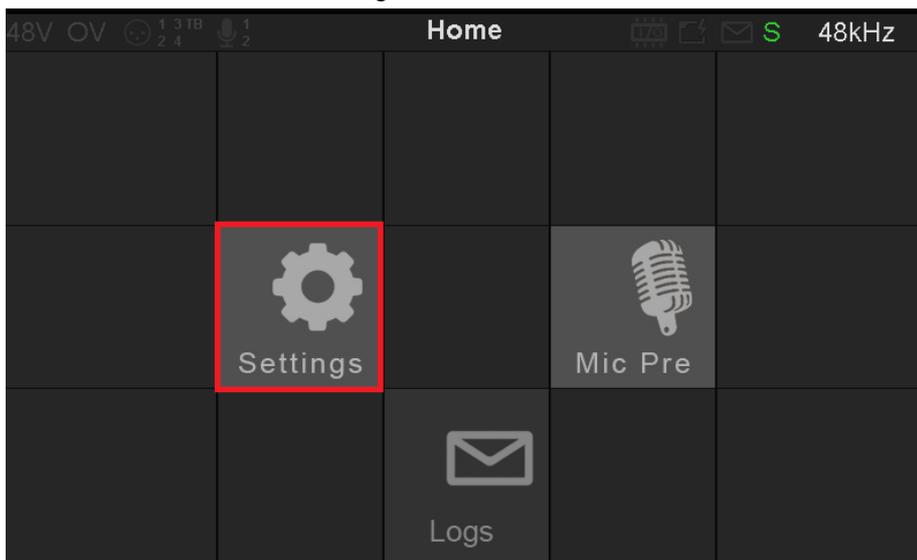
Anubis 設定例

Anubisは様々な機能を備えており、それらを自由に設定して使用することができます。
ユーザー マニュアルにも様々な設定例を記載していますが、この文章ではより具体的な設定方法を解説します。

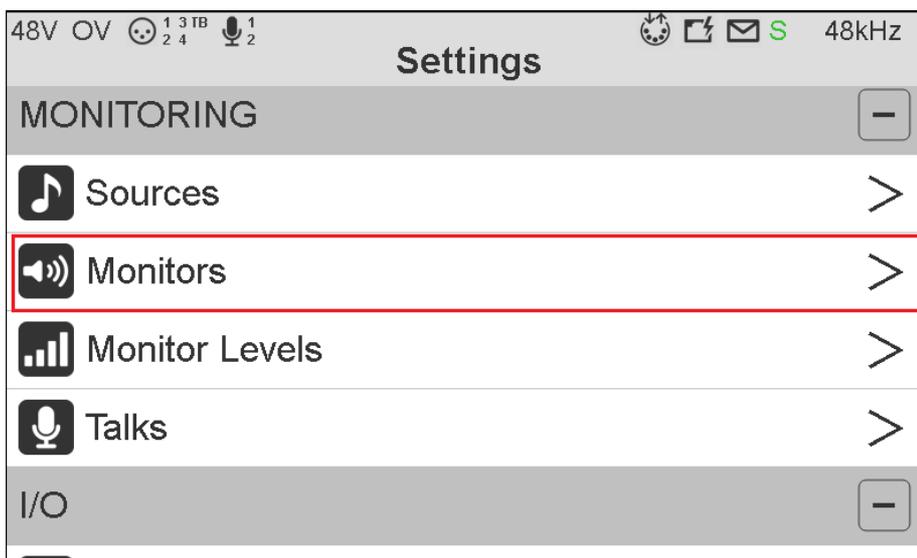
Danteシステムと接続し、Anubisをスポーツ中継解説者用のトークボックスに使用します。

Talkスイッチを押したときのみ、XLRに接続されたマイクの信号がDanteシステムに送られるように設定します。これは、Anubis側から見ると「トークバックの音声をStreamに送る」事になると言い換えられます。そのためには、まずAnubisからの出力を新たに作成します。

1. Homeボタンを長押ししてSettingsに入ります。

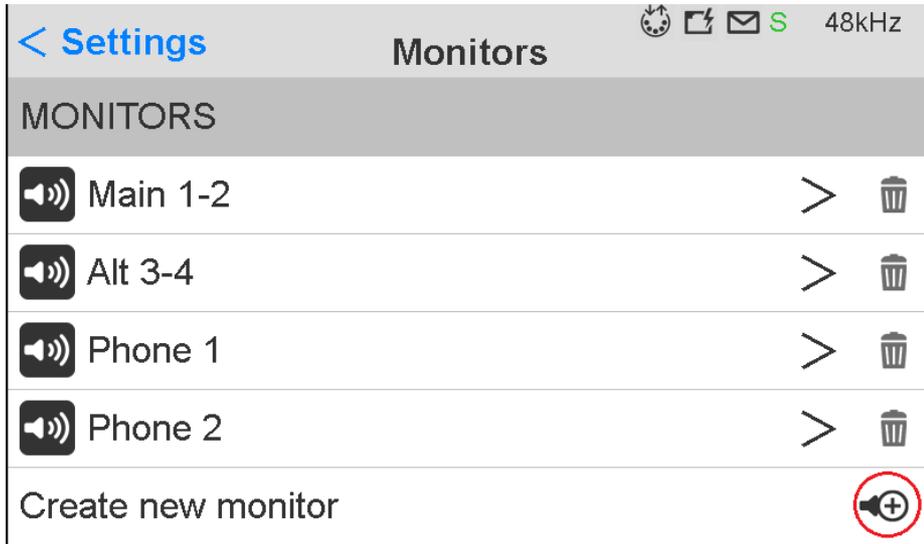


2. 下にスクロールし、Monitorsにタッチします。





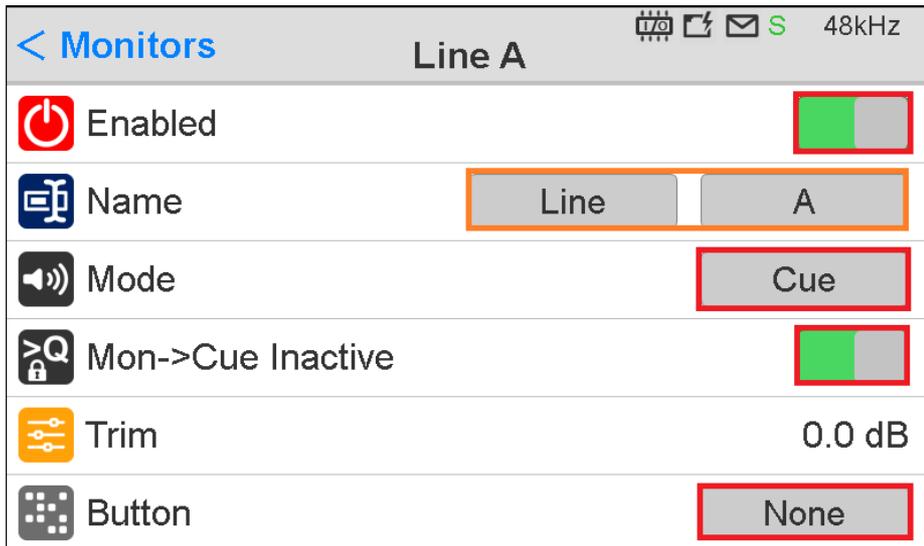
3. Create new monitor をタッチして新しいCueを作成します。



4. HeadphoneやSpeakerとは異なり、Cueはこれらとは独立した音声を送ることができます。そのため **"Mode"** は必ず **"Cue"** に設定して下さい。

"Name" は後でPCのWebインターフェースから名前を書き換えられますので、適当に設定して下さい。

"Button" は特に与えなくても結構です。





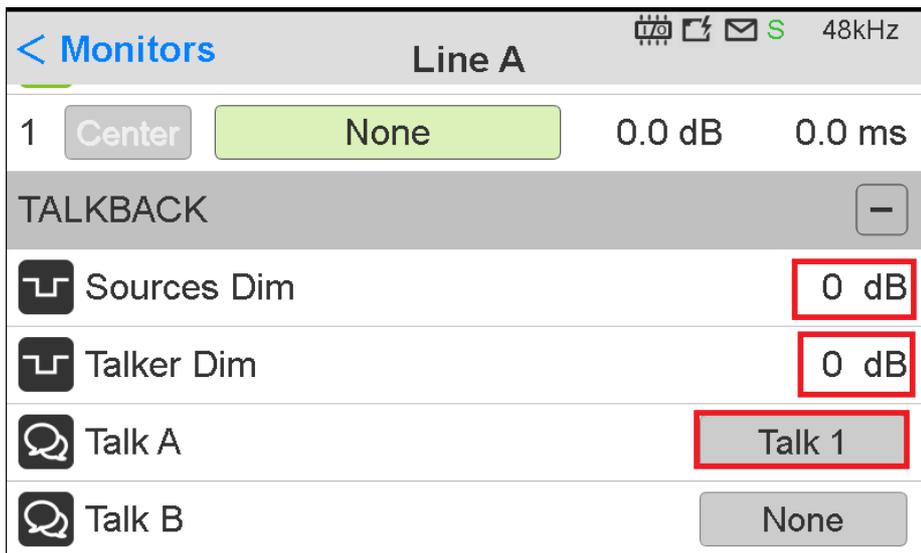
5. 少し下にスクロールします。
送るTalkの回線はモノラルですので、“Type” は“Mono” に設定します。

出力はDanteに出力しますので、ここでは設定しません。



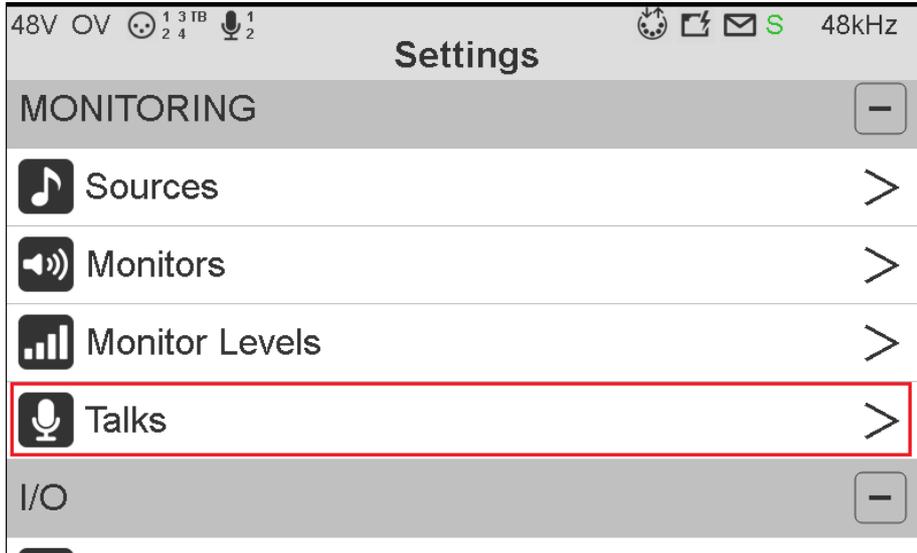
6. さらに下にスクロールし、“Talk A” を“Talk 1” ボタンでOnになるように設定します。

信号がDimするのは避けなければならないので、Dimの設定は“0dB”のままに設定してください。

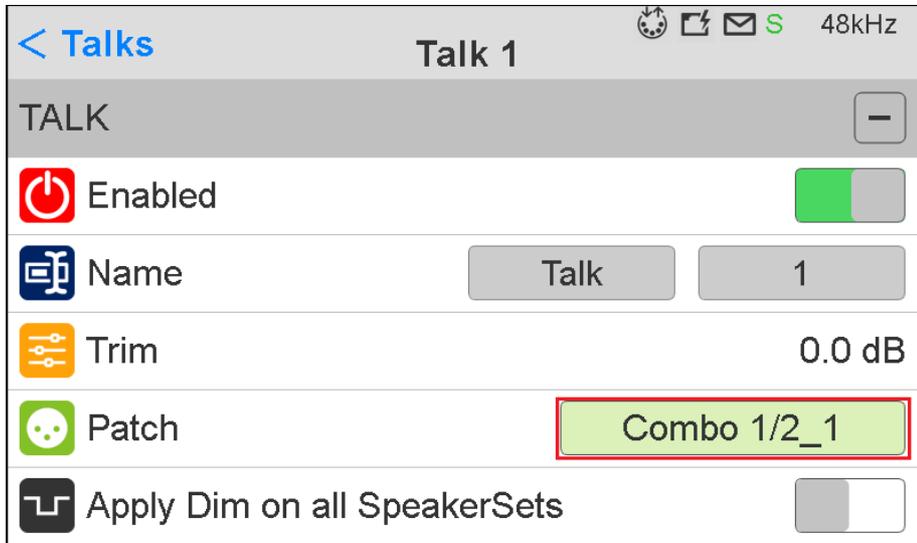




7. 次にMonitorの設定を抜け、Talksの設定を行います。



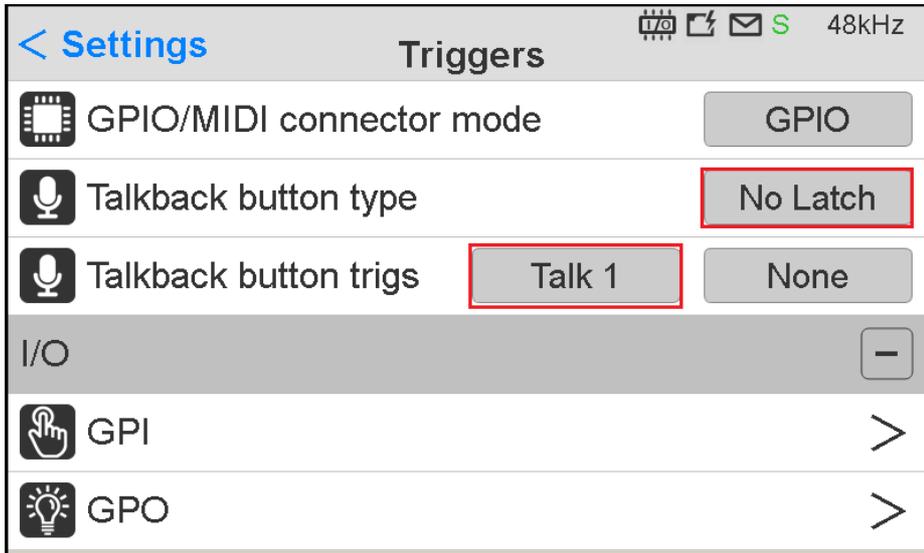
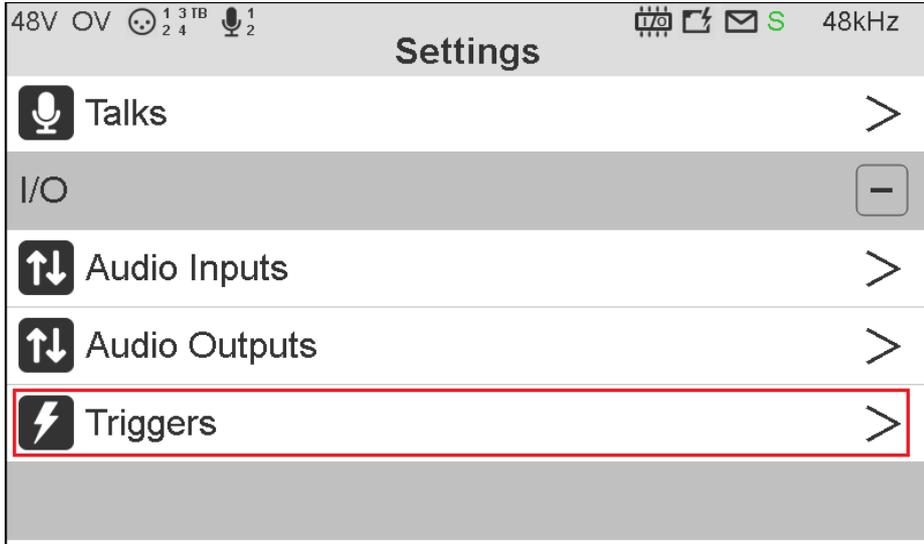
8. Talk 1 の入力ポートを “Combo 1/2_1” に設定します。



Talksの設定は、これで終わりです。



9. 最後に、喋るタイミングとスイッチの動作を合わせるため、Triggersを設定します。



”Talkback button type” は、次の様に働きます。好みのモードに設定してください。

設定名	動作
No Latch	ボタンを押しているときだけマイクがOnになります。
Latch	ボタンを押してマイクがOn、もう一度押してOffになります。
Auto Latch	ボタンを短く押すとLatchモードになり、長く押すとNo Latchモードとなります。

※注意：TalkがOnの時、“Talk 1”のボタンは、青く点滅します。

以上の設定により、TalkボタンがマイクのON/OFFを制御できるようになりました。後は解説者マイクからの出力回線をDanteへ、解説者へのモニター回線をDanteから、接続すれば設定は完了となります。

10. PCでDanteコントローラを起動し、[Danteとの接続の解説文](#)を参照しながら接続してください。